

CSNニュース 2月号

(社)地域社会支援ネットワーク神奈川

CSNは自治会・町内会様と連携し、併せて民生委員・児童委員、地域包括支援センター、地域ボランティアグループとも連携して地域の独居者やご高齢者への見守り電話(無料)や生活支援を行っています。「どこに頼んだらよいだろう?」と思ったときに CSN に“ご相談”下されば、「作業の方法」をご提案し、利用者様の立場で地域の信頼できる業者への「お手配」を行っています。また、地域の皆様むけに共同発注を企画して、より良い「サービス」「商品」を選択し、地域限定の特別価格にてご提供しております。

昨今の高齢化する社会において、高齢化の現状と高齢者を取り巻く環境や高齢期に向けた「備え」に関する意識などについて、「平成26年度版高齢社会白書」から抜粋してご案内いたします。



【第1節】 高齢化の現状 ☆高齢化率が25.1%に上昇

- 我が国の総人口は平成25年10月1日現在で1億2,730万人で、65歳以上の高齢者人口は過去最高の3,190万人です。男女別では男性1,370万人、女性1,820万人と女性が450万人多くなっています。(男性は女性の75.3%)
総人口に占める65歳以上の人口の割合(高齢化率)は過去最高の25.1%となりました。(前年24.1%)
また、25年後の平成72年には、2.5人に1人が65歳以上、4.0人に1人が75歳以上と予想されています。

【第2節】 高齢者の姿と取り巻く環境の現状と動向

- 65歳以上の高齢者のいる世帯については、世帯数が増え続けており、全体の4割(43.4%)を超え、親と未婚の子のみの世帯と夫婦のみの世帯は増加傾向にある。平成24年現在で夫婦のみの世帯が一番多く3割を占め、単身世帯と合わせると半数を超える。
- 一人暮らし高齢者の増加は男女とも顕著で、高齢者人口に占める割合は、昭和55年に男性4.3%、女性11.2%であったが、平成22年には男性11.1%、女性20.3%となっている。
- 高齢者の経済状況として、暮らし向きに「心配ない」(「全く心配ない」と「それほど心配ない」の計)と感じる高齢者は60歳以上が約7割で、80歳以上では8割との高い割合となっている。
- 高齢者世帯の平均年間所得は303.6万円です。全世帯平均の548.2万円の半分強ですが、世帯人員一人当たりの年間所得は平均世帯人数が少ないことから195.1万円となり、全世帯平均208.3万円との間に大きな差はみられない。
また、公的年金・恩給を受給している高齢者世帯の7割において、公的年金・恩給の総所得に占める割合が80%以上となっている。

区分	平均年間所得金額	稼働所得	公的年金・恩給	財産所得	社会保障給付金	仕送り・他所得	世帯1人当たり
高齢者世帯	303.6万円 (100%)	59.2万円 (19.5%)	209.8万円 (69.1%)	17.6万円 (5.8%)	2.3万円 (0.8%)	14.6万円 (4.8%)	195.1万円 (1.56人)
全世帯	548.2万円						208.3万円

- 貯蓄は世帯主が65歳以上の世帯の平均貯蓄額は2,209万円で、全世帯平均1,658万円の1.3倍で、貯蓄の主な目的は病気や介護への備え(62.3%)となっています。

※次号では「高齢者の健康状態」「高齢者の社会参加活動」「高齢期に向けた備えに関する意識(経済的/就労/社会参加/健康/住宅)」などをご案内いたします。